# コットンフラワーの栽培

JA グループ和歌山農業振興センター　技術参与　本田　孝志

## 【はじめに】

「コットンフラワー」とは「綿花」のことです。アオイ科の植物で、高温乾燥を好みます。花が咲いた後に実ができますが、この実をドライフラワーにして観賞用に用いることが出来ます。
直売所などではクリスマス前によく販売されていますが、大量に使う品目ではないので、小面積での栽培が良いかと思います。病害虫に強く手間のかからないコットンフラワーの栽培について簡単に紹介したいと思います。

## 【品種と作型】

いくつかの品種がありますが、切り花用には草丈の長い品種が適しています。綿の色は白色や茶色などがありますが、一般的には白色の栽培が多いようです。
高温性の植物なので、５月になり気温が高くなった後で栽培をスタートします。９月に実がたくさん付いた状態で切り花を行い、風とおしの良い倉庫などで乾燥させてドライフラワーにします。

【写真：白色と茶色の品種】

【作型】

| 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ●―▲―――――――――― | | | | 収穫 | 乾燥 | | 販売 |

●播種　▲定植

## 【育苗】

種は固いので播種前日に水につけておきます。７２穴程度の大きいセルトレーに１粒ずつ播種し、覆土を行います。気温が高いと５日程度で発芽するので、本場が１枚展開したころに定植します。
９ｃｍポットで育苗した場合は苗がもう少し大きくなってから定植するようにします。いずれの場合も根鉢をくずさず、根を傷めないようにすることがポイントです。
コットンフラワーは直根性なので、老化苗になると生育はよくありません。そのため、気温が高くなった５月中旬ころに圃場へ直撒きするのも良いでしょう。この場合は１つの植穴に３粒程度播種し、発芽後は１株に間引きます。

【写真：播種1週間後の苗】
（気温により生育差あり）

## 【定植】

日あたりが良く排水性の良い圃場で栽培します。セルカなどの石灰資材を施用後、少量の元肥を施用して耕耘します。コットンフラワーはやせ地でもよく生育するので、肥料は少なめとします。なお、畝幅は１２０ｃｍ、株間は３０ｃｍ程度とします。

## 【栽培管理】

定植直後は気温があまり高くないので成長は遅いですが、梅雨後半になり気温が高くなると急成長し草丈が高くなります。
無摘芯栽培でも適切な草姿になりますが、６～７節で摘芯すると適度な長さの切り花ができます。なお、高性種ではなく、草丈の低い品種の場合は無摘芯栽培とします。
草丈が大きくなると強風で倒れることもあるので、株の両サイドにビニールひもを１段張り、倒れないようにします。

## 【開花・結実】

夏になるととても美しい花が咲きます。花は短期間でしおれてしまいますが、実がどんどん大きくなってきます。
花は黄色でアオイの花に似ています。実は緑色でゴルフボールより少し小さい大きさになります。

【写真：コットンフラワーの花と実】

## 【収穫・乾燥】

樹の下のほうの実から充実してきます。１株のうち２～４個の実の先端が割れてきたころに切り花収穫します。この状態ではほとんどの実は緑色のままです。
天候にもよりますが、すべての実が割れるまで畑に放置すると、雨により綿が変色して品質が低下します。

収穫したコットンフラワーは葉をすべて除去とともに、茎の先端など不要な部分を切り取り、風通しの良い倉庫などに吊り下げ、乾燥させます。

数日すると実が割れ始め、中からかわいい綿花が見えてきます。ドライフラワーなので保存ができるため、需要に合わせて販売します。

なお、病害虫の発生はあまり多くありませんが、登録のある農薬としては、オオタバコガにはアファーム乳剤やプレオフロアブル。殺菌剤としてはダコニール１０００やトリフミン水和剤などがあります。

## ＝ポイント＝

○日あたりが良く排水性の良い圃場で栽培
○気温が高くなってから播種
○緑の実で収穫し、乾燥させて綿花にする